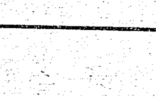
二十四日夕刊

磐城毎日新聞

□本紙一ヶ月　金六十錢
□郵税　金十五錢
□一部賣　金三錢
□廣告料一行　金六十錢
□雜報欄　金九十錢
□場所指定一行　金一圓半
□電話（平）七八六番
□振替口座東京一〇八・五六五
福島縣平市田町十六番地
發行所　磐城毎日新聞社
發行編輯兼印刷人　森合英



閼伽井嶽

排他的思想を駁す

田町　隣組生

過ぐる日、私達は隣組員としてS家の葬儀手傳ひに參集舊家の葬儀で組員だけでは進行に不安を感じた組長は、來會の申合せに基き、役員の來援を求めんとしたところ、席上組内のK老人、隣組長のとつた最善の行爲を追求して曰く「私達はどんなとがあつても他へ動かれないのだ、それに他から來て何時何處へ行くか解らない人達に勝手に惡い慣習を殘されては困る」と他から轉住したものが構へて惡事を企てるが如く甚しい侮辱を加へたので、隣組員たるもの憤然色を爲したが、其の場で爭ふことは死者に對して禮を失することになる爲、組長は『他から來た者と云ふが私は平に住して十余年、墳墓の地と定め、墓所を設け祖先の骨も移してゐる」と温和に反駁したのみで收つたのは、組長の度量に依るものである。K老人の言を直譯すれば「吾々は町の先輩であり、地主で家作持ちだ、他所者に支配されてたまるか？と自分だけ住居權を有する如く錯覺を起してゐるやうだ。

時局を正視せよ、一億同胞が一心一体と成つて時艱を克服すべき危急存亡の時である小さい町の然も小なる感情で他の協力を故意に妨げんとする保守的な然も排他的思想はきれいに捨て〃老人と金釘は〃の俚諺通り宜しく勇退し、青年に凡てを任すべきであらう。

文藝

颯爽と微笑むポスターの中の娘が限りない感激を湛へて彼女の胸に呼びかけて來る
（敏彦）

啄木の歌評釋（下）

木下雁次

こころよき疲れなるかな
息もつかず
仕事をしたる後のこの疲れ

何をやつたのだらう、息もつかずにやつたといふのである、自分の詩集の校正だつたかも知れぬ、或はうたの原稿の整理だつたかも知れぬ。兎に角强ひられた仕事でなくて自分のすきな仕事だつたらういや或は嫌な仕事を一生懸命にやつてやれ〳〵これで仕事が終つたといつて一杯の茶を啜るか、一本の煙草を口にした時の心持だつたかも知れぬ兎に角責任を果したといふ心よき疲れである、

打明けて語りて何か損を
せしごとく思ひて友とわ
かれぬ

我々はなにかなしについ友達と語り合つてゐる中にふと自分の心中を打明けて友の批判なり同情なりを求めたくなることがある。しかしこんなことをしてさて別れて一人とぼ〳〵と家路を辿る時にはあんな事を語るんではなかつた自分は何といふ卑屈な男だらうと後悔めいた氣持になることが多い。自分の眞情をうちまけても「損をした」やうな氣持にならぬことは寧ろ稀であると思はれる、しかも弱い我々はともすれば他人に對して要もない自己告白をしたがるのである、

朝寢して新聞讀む間無りし
を
負債の如く
今日も感ずる

昨晩夜更かしをして、今日は朝日が寢室にさしこんで來る迄ぐつすりねこんでしまつた。起きて見るともう八時近い。やれ〳〵大急ぎで飯をかきこんで出勤かと思ふと憂鬱になる。しかもこんな朝は頭も重い。勤め先に來て見ても今朝新聞を見てこなかつたので、世間の人は皆何か重大な事を自分より先によみ知つてゐるやうに思はれ、自分だけが知らないやうに感ずる。それにあの續き物の小說はどうなつたらうなどと考へると終日負債の如く、讀まねばならぬ讀まなかつたといふ意識にさいなまれる、けだし近代文化人の持つ一つの焦慮である「今朝も」だからそれが屢々ある經驗である事を物がたつてゐる。
（完）

短歌

國憂ひつゝ

（平）渡邊松久

國憂ひ蹶起し同志は獄中に如何に過ぐすらむ此の眞冬夜を

國ぬちと外つ國々の現狀をおもひめぐらせば危機ちかづきぬ

混濁の世を憂ひつゝ神祈り此の身ひたすら大君に捧げむ

かずならぬ身にしあれどもすめらぎの御旗の下に我こそ死なめ

かず〳〵の殊勳をたてて逝きませる君の手帖に血染まりあり

くろぐろと血潮そまれる手帖をば抱きて泣けるつましあはれなり

連續講談

異說赤穗浪士（いせつあかほらうし）

〔108〕

桃川若燕　講
城木霽　畫

右門僞りの入湯

右門は宮の下を後に釣り橋を渡つて底倉木賀と來て龜屋と云ふ旅籠に泊つた、龜屋の下は谷川の流れ、

『七助、どうぢや、よい景色ではないか、ときに湯治も長くなつたので明後日邊り共方を返さうと思ふが……』

『へエ』

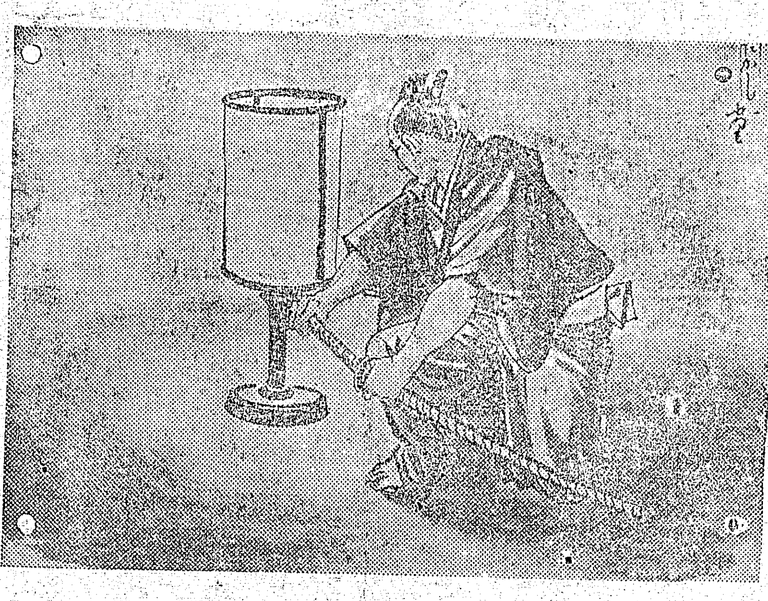
『碁の相手などをさせたいが共方は碁石の並べ方も知らぬので仕樣がないの』

『どうも手前は無器用者でございますので』

『オヽ七助思ひ出した事がある、賴まれては呉れまいか』

『へエ、何んな御用で』

『共方の身体を借して貰ひたいのだ』



『何をなさいます』

『實はな、拙者角田先生のところへ通つて十年早繩の稽古をしたがその後どんと試して見ない、眞逆に江戸屋敷で早繩の稽古も致し兼ねる、此の屋敷へは余り人も參らぬ故、共方を取つて投げ繩を掛ける……』

『夫れは御免を蒙りませう、何ぼ稽古でも放り出されて縛られては堪るもんぢやアございません』

『只ではない、拙者の對手をしてくれゝば其の方の好む肴で酒を吞ましてやり、又明後日出立する時は路銀の外に金子を澤山遣はすがそれでも嫌か』

『ヘエーそんなら今酒を御馳走になつて歸るときに金を下さいますが』

『左樣――』

『そんなら宜しうございます

『では早速初めるぞ』

と右門は荷物の中より取り出した細繩、

『七助、坐つてゐては駄目だ立て――』

『へエ、斯うですか』

と立ち上る途端、七助の手を取つて肩に掛け、もんどり打たして投げつけ、起き上らうとする間に早くも用意の早繩嚴重に縛り上げた、

『ア、痛え〳〵旦那足まで一緒に縛つては困ります、これからどうなりますので――』

『七助、その方に話さねばならぬ實は早繩の稽古とは僞りぢや』

『エ、ツ……どうなさるので』

『外でもない、醫者の云ふのに、拙者の病氣は金錢づくでは治らぬと云ふ、成程聞いて見れば金子では手に入らぬ物が要るのだ』

『旦那樣、どうか話しでしたら繩を解いてからにして下さいまし……』

『マア待て、でその藥と云ふのは……七助笑つてくれるな』

『イエ笑ふどころぢやアございません』

『その藥は精氣盛りの男の物を根から切り落しその血を吸ふと云ふのぢや……』

『旦那樣冗談ぢやありません人を縛つておいてそんな話しを』

『しかしこれのみは賣つてくれとも云ひ兼ねるし、又賣りませうと云ふ者もない乃でこれは家來の忠義な者を賴んで切つて貰ふが一番と考へた、ついては七助共方はまだ拙者のところへ參つて長年といふではないが、平素の志、愚妻への心遣ひ實に感心なもの、乃で共方に賴まうと存じてこれへ連れ參つた、共方なら嫌とも云ふまいと思ふがどうぢや、是非七助、共方の品物を貰ひたいが萬一嫌と申さば親子諸共、生を絕たねばならぬ……』

と云ひつゝ一刀手許へ引きよせた、

附屬產院　新設
姙產婦入院隨意
產科
婦人科　木村病院
平市新川町
電話一六四番

便利で經濟な
日下家政婦會の
派出婦を御利用下さい
身元確かで品行方正ですから
何をお任せしてもご安心です
平市一丁目三二番地（電話七二三番）
日下家政婦會
會長　日下すい子
會員同志の御加入（派出なき閑暇に裁縫や編物をお敎授致します）を御誘ひ致します

日の出醬油
釀造元　綠屋商店
小名濱町（電話二十九番）
千代田生命保險相互會社
富國徵兵保險相互會社
日產火災海上保險株式會社
代理店

りん病　こしけ
專門藥
岩里別府淋藥　一週間分　參圓（黑）　五圓（赤）
痛みある病、熱ある病
岩里別府散　七包入　五十錢　十五包入　壹圓
製藥本舖　別府市　岩里天然堂
代理店　阿康藥局
平市古鍛冶町一〇　電話四四番
振替東京三〇〇六五番

磁氣應用治療（マグネタイザー適應症）
【循環器系統】血壓亢進症、動脈硬化症、心臟病、心悸亢進症、貧血症、肩の凝り、
【神經系統】神經衰弱、不眠症、神經痛、頭痛、小兒痲痺腦溢血、腦充血、腦貧血、ヒステリー、腦膜炎、中風、
【消化器系統】胃痛、胃擴張、胃酸過多、胃痙攣、胃腸加答兒、脚氣、消化不良、便祕、下痢、胃潰瘍
【呼吸器系統】喘息、ルイレキ、肺炎、肋膜炎、肺尖加答兒、肺結核、感冒、
【泌尿生殖器系統】淋疾、消渴、腎臟炎、膀胱加答兒、副睪丸炎、性慾減退、糖尿病
【婦人科系統】子宮病、月經不順、其他一般婦人病並に產前產後の諸病、淋毒性子宮疾患
【外傷其他】打撲傷、脊髓カリエス、骨髓炎、骨膜炎、淋毒性關節炎、レウマチス、蓄膿症、耳鳴、中耳炎、痔疾皮膚病一般等
平市田町（驛前）
シンガーミシン會社二階　物理療法磁惠院

病室增築、手術室完備
產科
婦人科　醫學博士　五十嵐雄二
平市新川町「電話三六九番」

タンス・鏡臺
御婚禮調度品を取揃へました
是非　和久井屋へ御越し下さい
平市一丁目（電話四〇五番）

安田系統の帝國海上
帝國海上火災保險株式會社
平代理店　關內正一
事務取扱者　阿部助次郎
平市二丁目　電話一六番

電話新設「七〇番」を新設致しました
海盛座
四倉座　經營
四倉仲町　齊藤常松

食事。
喫茶。
酒場を兼ねた。
レストラン　サロン
營業時間
開店…午前十時
御食事は午前十一時より、
閉店…午後十一時限り、
平市銀座街
電話五九二番

時局の生んだ
新案特許　日の丸習字板（第二八〇五七八號）
使用法…半紙節約ノ目的ニテ墨デ書イテ濡雜巾ニテ拭ツテ置ケバ何回ニテモ使用出來マス
實用新案（メモ板　第二七七九〇四號　野球ベール　第一七九七三號　興亞ノート　第二四七九八號）
專賣特許　興亞厚紙　第（イ）一七三六〇號　第（ロ）一七三六一號
合資會社　興亞特許商事
同工場　月見町三三

お醬油は
味噌、醬油
たひら正宗
鰹節、食料品
鹽屋　山崎合名會社
福島縣平市
電話　營業部一〇番　本店二七番
明治生命磐城代理店　山崎與三郎

メガネ專門の店
メガネは絕對信用ある當店に先づ御相談下さい………
平市本町二丁目
玉屋

東京大丸屋吳服店出張實用期節品販賣
〜お馴染の（大）公益優先、商業報國〜
期日　一月廿一日ヨリ廿六日ムデ　六日間（舊十二月廿四日ヨリ廿九日マデ）
銘仙新柄特賣會
場所　平市紺屋町縣社前通　旅館住吉屋本店ナラビ

▽募集
夫婦者　月給百圓　五十才マデ
但シ仕事ハ枕ヲ作ル【特點・一戶ヲ貸與ス家賃不要　素人モスグ覺エル】
女中（台所希望者　ミシン希望者）各二名　十五才以上
店員……五名　十五才以上
【月給・年期・前貸モ可・女中ハ夜間裁縫・店員ハ青年學校ヘ通學ヲ許可ス】
希望者ハ御照會乞フ
フトン袋
各種枕
卸商　富士屋商店
東京市淺草區東三筋町六
藤澤二郎

國民擧つて防火塗裝を！
回危險に曝露する木造家屋
回手輕るに出來る防火家屋
回コロイド防火塗料の特長
1、太陽無機コロイド塗料は絕大の防火力を有します
2、本品の右に出る防火塗料は他にありません
3、粘着力非常に强く木材によく密着します
4、既設家屋に自由に施工が出來ます
5、刷毛にて簡單に施工が出來ます
6、價格が低廉で經濟的です
7、塗面が汚れた時は水洗ひすると直ぐ綺麗になります
8、工業試驗所は本品の防火力を一、二五〇度と御證明下さいました
回大量使用の御注文並に團体的御申込へは實驗の御希望に應じます
專賣特許　太陽無機コロイド販賣店
山田文一商店（平市仲町通り　電話二六二番）
カタログ進呈

專賣特許二〇五九一三號
節の素
營養に富み最も經濟的な「調味料」（二五〇瓦入　定價六八錢）
▼味と營養價値…味は鰹節と變りなくヴイタミン、カルシユーム、沃度を多量に含んだ榮養味、
▼原料…新鮮な鰮の骨肉共に粉末にしたものに海草類を加へ、完全に脫脂精製したもので風味最も佳良な調味料
▼用途…鰹〇や削り節の代用品として又味の素の代用も可（保存五年保證）
▼經濟的價値…鰹節三圓に對し十五錢の割合煎子一圓三、四十錢に對し十五錢の割合で充分足る
▼主なる納入先…日本赤十字社、陸軍偕行社、陸海軍々需部其の他
特約店
平市古鍛冶町　佐藤陽侔商店
平市鎌田町　菅野勘助商店
賣店土橋　鹽屋商店（電話十番）

齒科一般
佐々木齒科醫院
日本齒科醫學士　佐々木三郎
泉村小學校前　電話一番

議員の改選一ヶ年延期

地方の小政爭も明年迄解消

翼賛体制の議會協力案成る

選擧法改正案が今議會上程を見合せることに閣議で決定、同時に衆議院議員並に地方縣會、市町村會議員共任期を一ヶ年延長國民の紛爭を避け、翼賛議會を實踐することに成るが、平市會議員の今夏七月十日改選を初め石城郡內三十二ヶ町村中殆んど今年が改選期に當つてゐる爲、各市長村共それ〲選擧準備を覺悟してゐる際だけに「議員改選一年延期」は市町村當局をホット安堵させるに至つた

一億一心聖業達成の建前から昨年政黨が解消され、黨派的抗爭が一掃されたとは云ひながら地方的には尙相當政治的に意見を構へるものがあり、市町村議員の改選に際しては當然激甚な競爭が行なはれ、郡山市會選擧の如き醜狀をさらけ出すの憂ひ無しとせず、翼賛体制の見地からも識者の憂慮する處であつたが、地方の小政爭も一ヶ年間停止される譯である

平病院副院長 高橋氏全快

廿日から診療に從事

平病院副院長外科主任高橋俊幸氏は腎臟炎で靜養中の處この程全快、再び診斷に從事した

官行製炭に馬力かけ 今年産四十萬貫

平營林署で民業に協力

平營林署管下官行製炭は一般の木炭不足に呼應して十五年度は例年の約倍に當る八萬俵四十萬貫を製炭する計畫の下に着々進んで來たが本年度も餘す處二ヶ月余に迫つた爲同署では臨時雇ひし農民の余剩勞力を得て二月中一氣に二萬俵製炭、年度一ぱいの三月前に官行製炭を打上げようと張込んでゐる、尙ほ十六年度の製炭數量は正式の指令に接してゐないが大体十五年度と同樣例年の十割增と見てゐられる

傷痍軍人の職業輔導

二十九日市會議室で

縣學務部長主催傷痍軍人職業輔導懇談會は二十九日午後一時から平市會議事堂に開き市側から市長、學務課長一般關係者十數名が參加、軍人職業輔導の方法等に付いて種々懇談する

常會と市の協調に 連絡吏員任命

隣組に歩調合せ市も一枚加る

平市では區內會と市の圓滿なる連絡協調を圖るためこの程市吏員から成る區內會連絡員を次の如く任命、來月三日に初連絡員會議を開き區內會の指導と密接な連絡方法について協議した

△長橋町、長谷川政△研町古鍛冶町、渡邊美登△紺屋町、鈴木允△田町、松田賢雄、△一丁目、增田忠△二丁目、里見樂一△三丁目、神長倉春造△四丁目、小谷義男△五丁目、丹野由雄△新川町山野邊達卓、△材木町、岩立淺藏△鍛冶町、四家久米治△南町、仲里穩己△久保町、荒川一郎△胡麻澤、眞野眞作△北白銀町、佐川充宏△仲間町、增尾二朗△鎌田町、佐藤平吉△立町、橘光二△堤之內、山野邊西藏△南白銀町、西野源次郎△大工町、吉成朝重△揺槌小路、山岸清氣△舊城跡根本益利△八幡小路、松井深△月見町、佐藤一△北目町、渡邊政壽△大町十五丁目、木村忠卯△上平窪、松本金太郎△中平窪、新妻一郎△下平窪、渡邊直一△中鹽四ツ波、關場和一△幕內大室鯨岡小泉長佐、△鐵道官舍、柴田弘一

歳末を間近に控へ 小名濱港活況

舊正にごつこ黃金の波が

舊歳末の昨今小名濱町は鰮の大漁で各魚肥工場共黑煙天に冲し工業小名濱の面目躍如たるものあり、工業者は晝夜の別なく老幼男女を問はず總動員して、めまぐるしき活況を呈し、爲めに商店街は舊歳末だと云ふのに皮肉にも閑散の光景を呈し、此處二、三日で休漁となるので差迫つた小名濱の舊正は一時にどつと黃金の洪水に見舞はれるものと豫想されてゐる

學務事務打合

長谷川課長郡山出張

平市役所長谷川學務課長は二十四日から二日間郡山市役所に開かれる四市教育事務打合會に出席した

結婚費節約

社會事業へ寄附

平市四丁目狩猪庄一氏は令息の婚姻費を節約した金百圓を二十三日市社會事業助成會に寄附した

磐東銀行株主總會

營業成績良好・基礎愈々固し

石城郡植田町の磐東銀行は郡內唯一の本店銀行で同地方の特産蒟蒻粉（每年十一月から翌年五月に及び集散）約六十萬圓の荷爲替並に入庫貸付をはじめ木炭、木材に對する融資等殊に戰時下の諸增産に相並び躍進的な業績を上げてゐるが十五年後半決算の總會を今廿四日同行樓上に於て開いた、本期成績は純益六千九十二圓六十四錢、前期繰越一萬三百四十二圓五十錢を合せる一萬七千四百卅五圓十四錢の處分

諸積立に四千圓、配當に千七百七十圓、後期繰越一萬一千六百六十五圓十四錢のほか償却金に二萬六千五百廿九圓五十錢（有價證書、滯貸金、營業用建物及び代器等）に至つた內容充實の意圖が窺はれるもの及び五十萬圓の資本金に對して約四倍に達する百九十七萬七千圓の預金を見るものゝ如き地方人の厚き信用を得て前期に比し廿三萬余圓を增加せるもの等々郡南に重要な金融機關となつてゐる

尙ほ江尻博孝、金成通、金成金三、三重役の滿期改選は三氏共に重任となつた

市の公益質や 日曜も開業

舊年末庶民金融に備ふ

平市營公益質屋では舊年末が迫つて庶民金融利用者が增加する爲市民の便益を圖つて二十五日の日曜日は通常通り營業し舊元日の二十七日に營業を休むことに成つた

報酬を割りて 銃後會寄附

平女子青年の美擧

平市西部女子青年團員村上爲子、芹澤節子、齊藤きよの、千葉幸子、鈴木とみ子さんの五人は過般公會堂に開かれた公定價格展示會の監視員を勤めこの報酬のうち三圓を二十四日市銃後會へ寄附した

小名濱、泉間縣道 高架道に舖裝

日素が十八萬圓支出改良

小名濱臨港鐵道が小名濱、泉間縣道（小名濱、平潟線）を交叉する後場地內踏切りは、小名濱から泉驛へ鮮干魚類を急送する貨物自動車の交通に尠なからぬ障害を及ぼす爲問題化しこれが改良策について縣當局から臨港鐵道側へ善處方を要望してゐたが、日素側も地方の交通上に及ぼす影響を認め、十八萬圓の工費を單獨支出して小名濱町から藤原川まで高架鋪裝道路を建設することになり縣の監督下に過般着工した

新設の高架道路は高さ五米延長一キロ（四分の一里）幅員五米五十の堂々たる鋪裝道路で昭和十七年三月までに竣工縣へ引渡す預定である

この道路が完成すると現在凸凹甚しくトラックの運行に尠なからぬ交通難を來してゐた惡路もスピード化され輸送能率も倍加されるものと完成を期待されてゐる

陽氣が原因して 野菜類暴落

舊正月の台所大助り

舊正月も後三日、御台所もそろ〱年越の仕度に取掛る譯だが平青果組合に野菜類の御値段を聞くと例年にない暖かい陽氣に出廻りがよく二、三の品を除き生産過剩のため公定價格の約三分の一と云ふ慘めな暴落振りを示した、先づ安いものでは

ネギ、人參の公定一貫匁五十錢に對し十六、七錢の安相場で靑菜類も同樣の取引値段である、これは生産過剩が最も大きい原因であるが加へて例年靑森、岩手方面に五車平均の移出を行つて居つたのが今年は降雪がないため同地方が自給自足の狀態に入つたのにも依る

一方高値を呼んでゐるのは薩摩薯、里芋、ホーレン草等殊に薩摩薯不足は公定百匁五錢を一錢安の四錢に下げたため市場の不足は深刻化し今後共薩摩薯の出廻は期待出來ない狀態と成つた、この最も大きい原因は加工業者（燒薯業者等）が公定價を制定されてゐないのを普通相場以上の取引をしてゐるのに依る『早く公定價格を設けて一方に偏在するのを防いで貰ひたいものですこれでは野菜屋泣せですよ』と一業者は語つてゐる

小名の舊正月 新体制で

鳥小屋廢止飾は七日

小名濱町では舊正月行事を前年に倣つて正月〆飾を七日迄とし淨祓は五日午後七時諏訪、鹿島兩神社に行ひ正月の〆飾修祓式は八日午前五時各區海岸に設けた修祓式場で執行しなほ鳥小屋は廢止する事に決定した

時代色を映す『明治、大正、昭和』流行歌の變遷史

明治篇

福島縣第一回慰問使演藝家 中島湖洲述

⊠聞がいゝソング

1 酒は正宗、藝者は萬龍
唄は流行のマガイソング
ナンテマガインデショ

2 いやだ〱よハイカラさんは厭だ
頭の眞中に榮螺の壺燒
ナンテマガインデショ

此歌の「何て聞がいゝんでせう」は當時の流行言葉から取り入れたものだ。

⊠どんどん節 （四十四年）

1 駕籠で行くのは
お輕ぢやないか
私しや賣られて行くわいな
父さん御無事で又母さんも
共にたつしやで折々は
便りきいたり聞かせたり
ドンドン

2 伊勢は津で持つ
津は伊勢で持つ
尾張名古屋は城で持つ
家の世帶はあの嬶で持つ
嬶の湯もじは紐で持つ
紐の虱は、しわで持つ
ドンドン

明治四十年頃から浪曲家、三河家圓車（雲右衞門の師）當時飛鳥を落す勢だつた、圓車は必らず外題付に「向ふ下總葛飾郡、手前は武藏の豊多摩郡間を流るゝ其河は、雨さへ降るなら水も度々濁るぢやなれど誰がつけたか隅田川ドンドン」これを浪曲好はよく眞似たものである、それが歌詞を新たにして演歌となつて大流行となり、一世を風靡した

⊠スカラソング

何だ神田の神田橋
朝の五時頃見渡せば
破れた洋服に辨當箱下げて
テク〱歩き月給九圓
自動車飛ばせる紳士を眺め
ポロリ〱と泣き出だし
神よ佛よよく聞き給へ
天保時代の武士も
今ぢや憐なこの姿
家では山の神が
糸つなぎの手內職
十四の娘は煙草の工場
匂ひすれども刻葉も吸へぬ
いつもお金が內務省
かくこそあるなれ
生存競爭の活舞台

⊠紫ぶし （四十四年）

1 紫の袴ゆかしき姫君が
行先きいづこ
げに長閑なる春の日に
上野、飛鳥山、向島
散るなら散れ〱
ちつと散れサツトネ

2 他眼では樂な樣でも花魁は
金で買はれる
辛い勤のぢやないか
玩具の人形じやないけれど
顏で笑うて
胸で泣くチョイトネ

3 ねえあなた
こんなに私しを迷せて
それで二人が
未に添はれぬ其時は
痛くない樣に殺しておくれ
こはくない樣にネ
化けて出るスートネ

明治四十四年東京の花柳界に於て九州から流行して來たと云ふ紫節があらはれた。直に演歌に取入れられて大流行を見た、旋律はサノサ節から轉化して來たものらしいが後半部が獨創的である、是れを以て明治期の流行歌が終りとします、大正、昭和の流行歌は漫談的に書くつもりですから御期待を願います。

おらの良い マルミ[illegible]

名篇『驛馬車』を見る

洋畫饑饉時代の清涼

TH生

洋畫の輸入が制限されて以來國內の洋物映畫は殆んど影を斷ち洋畫ファンにとつては食ひ足りない淋しさがあつた斯うしたときに東寶聚樂館が相當の犧牲を拂つて『民族の祭典』『驛馬車』等を上映してくれたのは確かに市の映畫會へ淸涼劑を注入したものである。『驛馬車』は此處で批評するまでもなく、昨秋帝都で封切りされたとき、洋畫ファンが凱歌を奏した名作品である二十三日夜替り二日目に聚樂館を訪ね、滿員だらうと想像してゐたのに寥々たる觀客を一寸意外の感に打たれた、此處にも洋畫排擊の時代的流れが反映してゐるのか？それとも藝術的鑑賞眼が痲痺したか？洋畫ファンの減少に些か寂寥を感じた

◇

ストリーは、驛馬車に乘り合せた變つた性格の七人を巧みに描寫したものであるが、米洲南北戰爭前の荒んだ西部街々から、インデアンと白人の鬪爭、牧童の復讐等を間隙無く折込んだ名篇だ、時代映畫や、現代映畫など日本物からはどうしても受けられない深味と後味が良い

主要人物

軍人の妻、身重な	ルシイ
呑んだくれの醫師、	ブーン
浮浪のウヰスキー賣り	ピーコック
大賭博師	ハツト
矯風會から追はれた酒場女	ダラス
公金五萬弗盗んだ銀行家	ゲートウツト
牧童で脱獄者	キツト
臆病者の馭者	バツク
馬車護衛の警官	カーリイ

國婦、愛婦、方面委員が出征遺家族慰問

舊歳末に貧困者へも給與

既報、平市の第三十五國戰歿出動軍人軍屬遺家族傷痍軍人慰問は舊正月を三日後に控へた今二十四日午前九時から方面委員、國婦會、愛婦會、平婦人會、女子青年、區長等が數班に分れ市內の隅々迄も歷訪、戰時下舊歳末に美しい銃後風景を繰廣げた

尙ほ終つてから方面委員は引續き市內貧困者百世帶の惠與慰問を行つた

昨年以來 傳染病

平市が衞生思想喚起

平市昨年中の各種傳染病患者は二百余名の多數に上り現在なほ隔離病舍には△腸チフス、六名△猩紅熱三名△パラチブス、一名、計十名の入院患者があり昨年より一日の閉院も見ず殊に最近各地に天然痘の發生があるのでこの際傳染病豫防陣を强化すると共にこの撲滅のため市では衞生組合役員に對し常會等を通じて衞生思想の普及方を要請、昨二十三日それ〲各關係者へ通牒を發した

冬休みの勞賃 銃後會寄附

感心な兄弟表彰さる

小名濱町小屋の內壽六、林一郎、四年林良二、二年林ツル子の三人兄妹は冬休を利用して鰮加工に奉仕し、得た賃金三圓五十九錢を銃後奉公會に寄附し、その美擧を先生より表彰された

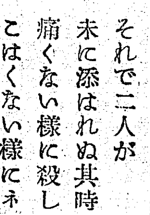
小名濱町で 隣り組指導

小名濱町では大政翼賛會の下部組織たる町內會常會（隣組長會議）を去る十六日から順次各區に於て開催中で町役場ではこれが指導に大童である

平市慶弔錄

【出生】△本籍平市中町二十番地現住所湯本町湯本三函大槻英雄二女紘子さん△本籍地平市三丁目四十番地現住所札幌市南六條西田山金藏三男十六男△本籍平市南町四十八番地現住所東京市城東區龜戸町安齊彥三三女智代子さん△本籍平市中壚字松山三十四番地現住所東京市王子區代々木黑木武輝四男政輝さん

【死亡】△平市長橋町三十九番地井幡喜七（五五）△本籍平市道匠小路二十三番地現住所鹿島縣出水郡出水町桐生幸造（六三）



舊 十二月廿八日
土曜 癸酉 先負 成 柳宿
新 一月廿五日

▲一白 人に賴らず自己の信念を以て事を處すべし
▲二黑 福德備るも人和を失ひ易く爭論を避くべし
▲三碧 口舌を愼しみ着實溫厚なれば援助を得大吉
▲四綠 急功を欲せず穩かに進めば諸事向上を呈す
▲五黃 進退の自由を失ひ窮境に陷り易し輕動嚴禁
▲六白 運氣盛にして目的を達する端緖を發見せん
▲七赤 身の分限を守り進退時を以てすれば吉なり
▲八白 些事に拘泥せず熱心に自己の本分を盡し吉
▲九紫 喜憂岐れ目の日遲疑せず熱心に萬事を謀れ

天氣豫報

今晩 南の風晴れ一時曇り
明日 北西の風晴れ一時曇ることもあるでせう
（廿五日）
滿潮 前四、〇〇 後一、三三
干潮 前八、三三 後九、三三

舊正第一回特別大興行
お待ち兼ねの名映畫
◎大船映畫
監督 野村浩將
主演 田中絹代
〃舞台姿〃
なつかしの野村、田中の名コンビにより『愛染かつら』以上の快心作

獨占文化映畫
◎マラリヤ
◎海外ニュース
◎日本ニュース
◎日活超特作
監督 藤井良一
主演 阪東妻三郎 市川春代
共演 高木永二 大倉千代子
〃風雲將棋谷〃
怪奇・戰慄・獵奇の波瀾
無敵新時代映畫の雄篇
觀覽料 大人六十錢 小人二十錢
松竹平館

磐城セメント
小賣指定
大谷石を賣始めました
野內商會
平市南町
電話一一番

大衆向きの小口保險
三百圓より大口契約も
板谷生命保險株式會社
小名濱代理店 比佐政種
好條件で外交員募る

味の種
榮養調味
醬油、鰹節、砂糖の經濟
極く少量の〃味の種〃を御使用になれば七分搗米や外米もフンワリ美味しく、榮養も高めて召上れます
△御飯を炊くとき米一升に對し小盃一杯
△其他和洋支あらゆる御料理に適宜に用ひると特有の味を生じます【一合瓶七十錢、四合瓶一圓三十錢、一升瓶三圓】
代理店 白菊酒店
平市田町【電話五四番】

謹告
今回其筋の慫慂と各業者新体制下に即應して市內六タクシーを合同致し營業所を平驛前元昭和タクシーに設置致し營業開始仕り候
從つて今後は一切當營業所以外に於てはタクシーの御用命は申受けざる事と相成り候倍舊の御引立御願申上候
昭和十六年一月十日
有限會社 平合同タクシー 電話 四三
御得意樣各位